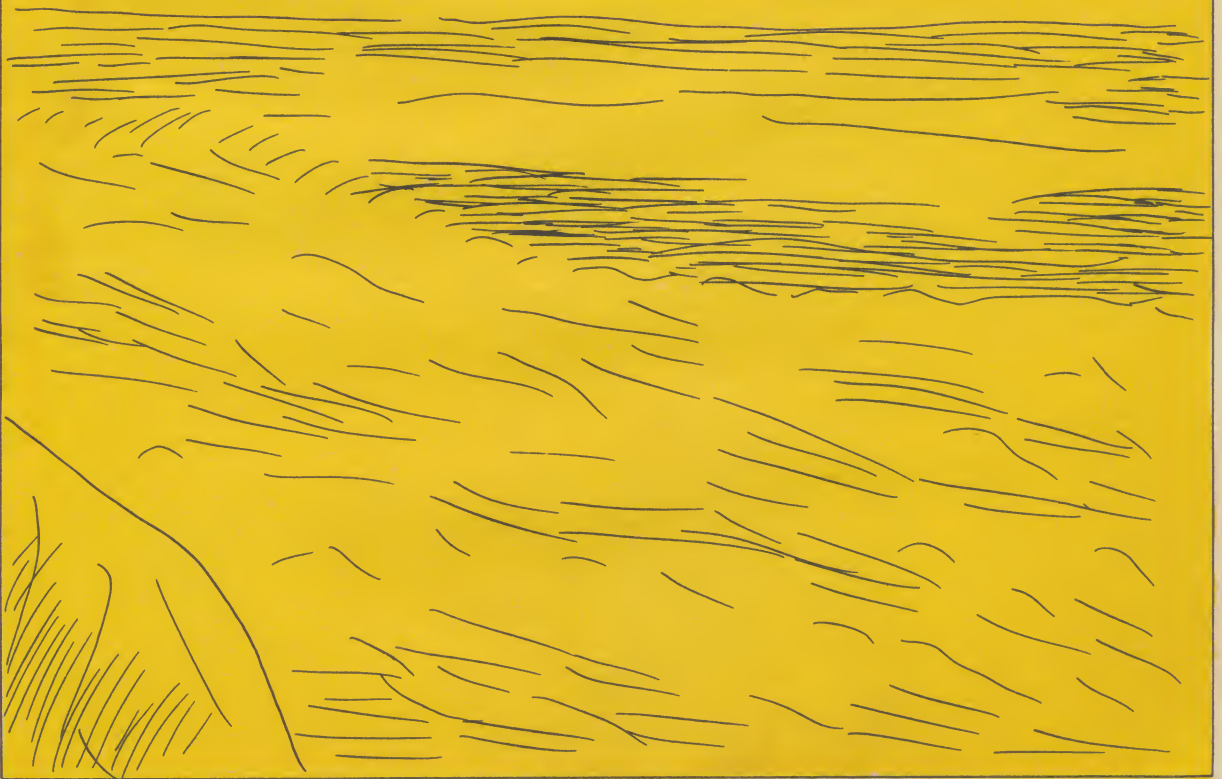
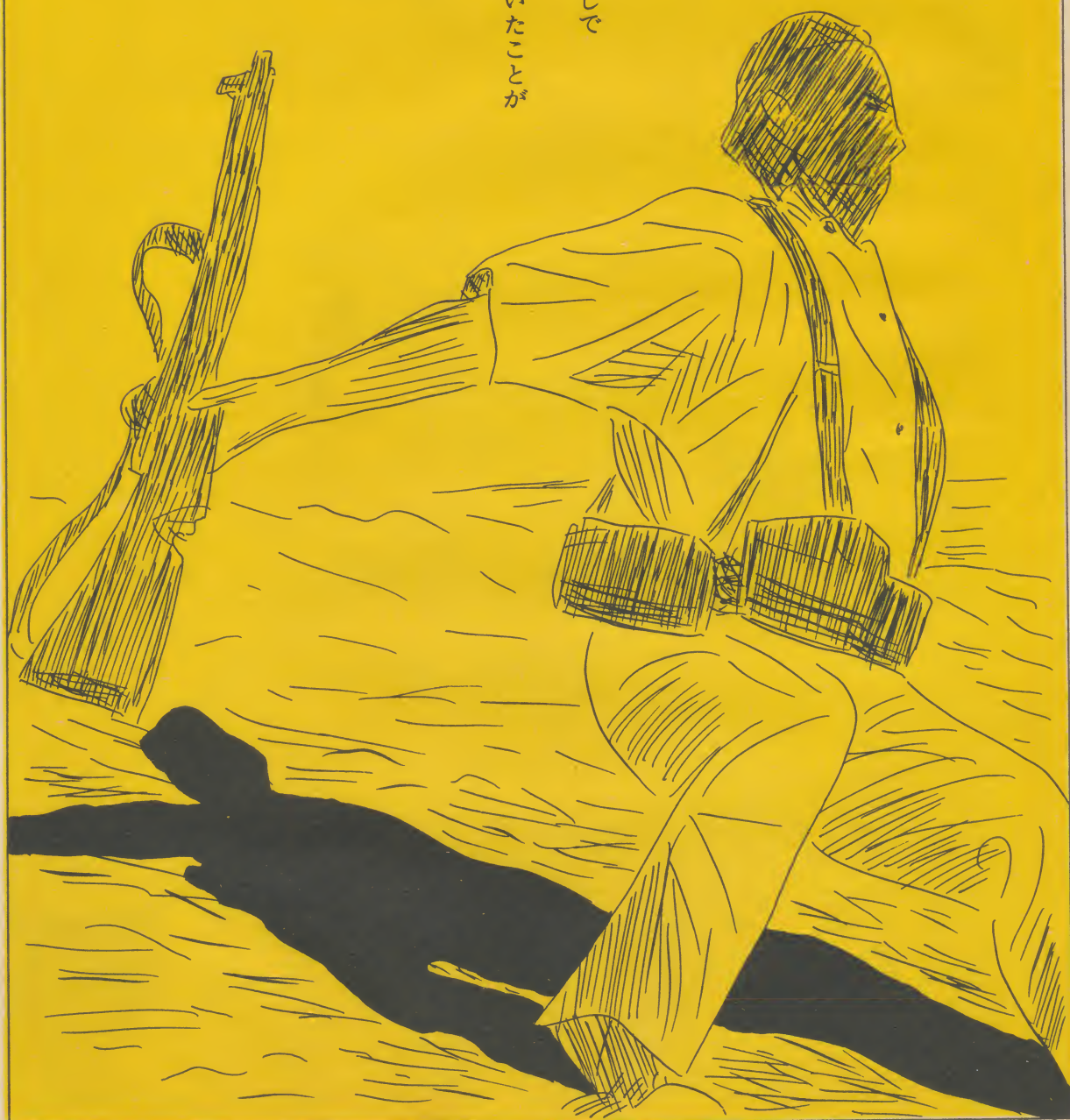
暗室

安西水丸

カルチェ・ブレッソンは
人間を愛するに
あまりにも人間ぎらいだった………とか

ロバート・キャパは
人間をきらうに
あまりにも人間を愛していた………とか

たしかそんな書きだしで
二人の写真論を
写真作品の時間に書いたことが
あった

宝田一美は写真科で
報道部門を選考している
よう
待ったかい

ぼくは彼と図書室で待ち
あわせていた。
ぼくも
今きたとこ
だよ

その頃ぼくと宝田はN放送局の
写真室でアルバイトをやっていた
暗室
なれたかい
少しね
最初は
寿司屋みたいな
においでね

早く
のばしおぼえると
いいよ
いいモノ見せて
やるから
なんだろな
いいモノって

ほら
商業写真の
島健っている
だろう
あいつ
すごいのよ

島健こと島田健三
俺んとこ
ボクシングの
リングあるぞ
彼の家は豊島区地帯を
とり仕切るテキ屋一家だった

その島健がスタジオと称して、
借りているアパートの一室に
いい女だろう

女二人をつれこんで裸にして
写真を撮ったのだという

いいぜ
こうなんちゅうか
モジャモジャって
しててね
宝田は不思議とこういうことに
ついている男だった

二人の女の裸か
ほんとにそんなの
見れるの

図書室の窓から
音楽科の教室が見える
教室にそって
銀杏が一列にならんでいて
誰れかがピアノをひいている

三杉恵子はN放送局の職員をしている
小西くん今日はおそいのね
その日ぼくは仕事を少し残してしまった

いえもう帰るとこです
あらわたしももうおわりよ

ぼくたちは同じ道を駅に歩いた
小西くん美術の学生でしょ写真もやるの
写真の科目もありますよでも遊びですよヒマだからちょっと

もう冬ね
寒くなりましたね

ねえ小西くん少しお酒飲まない
はぁ
ぼくたちは小さな酒場にはいった

お酒好き
なんですか
知らないの
アル中よ
わたし

そんな女(ひと)
きらい
いいえ
ぼくの姉たちも
飲みますし

絵描けるなんて
いいな
わたしなんて何にも
できないから
年ばっかりとっちゃって
ぼくは自分があんがい女性の
相手をしていることに満足したりした
そんなこと
ないですよ
うちの母(おふくろ)なんて
絵なんて男の
することじゃ
ないって今でも

彼女は少し酔ってきた
ねえ
秘密のこと
おしえて
あげようか
はっ

わたし宝田君
の子堕(おろ)したこと
あるのよ
ぼくも少し酔ってきていた
そんなぁ
信じられない
なぁ

翌朝 窓の風景におどろいた
あれっ
どうしたんだ
ろう

どう見ても知らない部屋だった
うわー
まずいな

窓をあけると裸になった
木蓮の木ずえが木枯らし
にゆれていた

階段の下で女の声がしてぼくは
寝まきの胸をおさえた、
女物だった
お目ざめ
小西くん

言葉が白い息にかわっていく
かるく
朝食
とっていって
ぼくはあせってしまったとい
うかうろたえた

それから三日ほどぼくはアルバイトを休んだ
のぼるさん電話よ

電話は宝田からだった
今すぐに来いって
うんじゃ行くよ
ぼくは三杉恵子のことで何かあるのかと不安になった

ぼくの家は宝田の家と歩いて四五分のところにある
いいかい入って
だまって はいるべからず
暗室
おう早く早く

ほらこれだよこの前島健の所で撮ったの
彼は別棟につくった暗室の中にいた

二人の裸の女が悲しげに横たわっている——

翌日ぼくはアルバイトに出た
号室
三号暗室
使いまーす

今日は
寒いな
ラジオを小さくつけた
天気予報が夜雪になると
告げている

その時だった
あっ
暗やみで女のにおいがした

そのまま
でいいわ
三杉恵子が暗室にいたのだ

赤外線ランプが彼女の白い
ブラウスを染めている
…………
…………
…………
…………
…………
…………

現象時間をはかる砂時計の音が
耳の周辺を恐しい音でまわっている
三杉さん
…………

その音に彼女の大きな吐息
が重っていく

ニュースを告げるアナウンスの声が
また夜の雪を報じている

東京地方
今晩から明け方にかけて
雪になる模様です

この雪は例年にくらべ
一ヶ月ほど早く
都心でも二〇ミリくらいは
つもるものとみられ
気象庁は
各交通機関に
厳重な注意を呼びかけています

カルチェ・ブレッソンは
人間を愛するに
あまりにも人間ぎらいだった………とか

ロバート・キャパは
人間をきらうに
あまりにも人間を愛していた………とか

終，1980. 11. 13